

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターマイム（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	令和8年1月28日	～	令和8年 2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和8年1月28日	～	令和8年 2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	令和8年1月28日	～	令和8年 2月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先からは「保護者に寄り添っていただいた」「園と施設で同じ関わりを取り入れている」といった声が寄せられており、当センターは園と家庭の双方に働きかけ、保育所、幼稚園、小学校のニーズにも答えながら、共通理解をつくる調整力を発揮していきました。	保育所等の保育や指導の状況や担任の立場を踏まえ、すぐに取り入れられる具体的な助言やその場でのフィードバックを行っています。これにより、子どもの変化が見られたり、保育者が実践しやすい支援につながっていると考えます。	支援の質は高く評価されている一方で、「専門性が十分伝わっていない」という声があるため、訪問前の目的説明、支援員の専門性の明示、記録の工夫など、支援の見える化を進める取組が求められています。今後、保育所等側との共通理解を図り、更にインクルージョン推進の基盤が強化されるよう取組んで参ります。
2	訪問支援は個別児童への助言にとどまらず、「担任が保育計画を立てやすくなる」や、「園生活に入り込んだ記録が役立つ」と評価していただきました。これらから、当センターは個別支援を通じて保育所、幼稚園、小学校など、地域全体のインクルーシブ保育の質向上に寄与できる組織であり、地域のインクルージョンの実践を底上げする“伴走型支援”が強みとして機能しています。	訪問日の連絡や確認、園生活に即した記録の共有など、保育所等との情報共有を丁寧に行い、保育計画にも活かされています。保育所等とセンターが相互に行き来しながら、共通理解を深める連携を意識して取り組んでいます。	「話す時間が十分にとれない」「支援が安定しないことがある」という意見から、訪問後の振り返りや相談が継続しにくい状況が示されています。今後、短時間の相談枠の設定、オンラインでのフォロー、定期的な振り返りの仕組みなど、継続的な支援を可能にする体制整備を図って行きます。
3	直接の訪問支援だけでなく、「電話での相談にも丁寧にに応じていただいている」「行き来できる交流が良かった」といった声から、当センターは継続的に子どもの変化を捉え、支援を調整し続ける力を持っています。これは、短時間療育・長時間療育・訪問支援を組み合わせた一貫した支援モデルを支える重要な強みです。	児童の成長過程を踏まえた見立てや、言葉かけ・関わり方の提案など、専門性に基づく支援を行っています。また、保育所等の訪問時だけでなく電話などでも丁寧に相談に応じ、継続的な支援を意識しています。	個別支援だけでは保育所等全体のニーズに十分対応しきれない場面があると思われます。今後、ミニ研修、環境調整の提案、園全体に役立つ情報提供など、個別支援を超えて保育所等全体の支援の改善につながる働きかけを強化することが重要であると考えます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ある施設から「どのような専門性をおもちゃ意識しないまま今年度は過ぎてしまった」という声があり、支援の質は高く評価されているものの、支援員の専門性・役割・支援の狙いが園側に十分に共有されていないという課題が示されていました。	一部の訪問先から「どのような専門性をおもちゃ意識しない」との声があり、支援の質は高く評価されている一方で、支援員の専門性・役割・支援の狙いが園側に伝わりにくい情報提供の仕組みが課題となっていました。	支援の質は高く評価されているものの、専門性や支援の狙いが十分に伝わっていない状況が見られました。そのため、保育所等訪問支援委員が保育所等の職員と訪問前の目的共有、支援員の専門性の説明、記録の工夫など、支援の“見える化”を強化する取組を実施して改善して行きます。
2	「支援員さんとの話す時間を十分にとれない」等の意見から、訪問後のフォローアップや相談の時間が確保しにくい状況が課題がありました。	「支援員さんとの話す時間を十分にとれない」という意見から、訪問後の振り返りや相談の時間が確保しにくい運営状況が課題として示されています。これは、支援員のスケジュール、園側の多忙さ、訪問形式の制約など、双方の時間的制約が要因となっていると考えます。	保育所等訪問支援員が訪問後の相談や振り返りが十分に行えない場面があることが示されていました。今後、保育所等訪問支援における短時間の相談枠の設定、オンラインでのフォロー、定期的な振り返りの仕組みなど、継続的な支援を可能にする体制整備を図って行きます。
3	「支援を利用している児童以外にも課題のある児童がいて、課題が解消されたかというところとも言えない」という意見から、個別支援にとどまり、園全体の課題に十分アプローチできない場面があることが示唆されています。	「支援を利用している児童以外にも課題のある児童がいる」という声から、個別支援中心の訪問では、保育所等全体のインクルーシブな課題に十分アプローチできない構造が課題として浮かび上がっています。これは、訪問支援の制度上の枠組みや、支援員の人数・時間の制約など、支援提供の仕組みそのものに起因する要因があると考えます。	保育所等訪問支援の支援が個別支援中心では園全体の課題に十分対応しきれない状況が見られました。今後、保育所等全体に役立つ情報提供、ミニ研修、環境調整の提案など、個別支援を超えて園全体のインクルーシブ保育を支える工夫をしてまいります。

事業所名		公表日			令和 8 年 3 月 28 日	
児童発達支援センターマイム		利用児童数			令和 8 年 3 月 28 日 回収数 14	
チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
1 訪問支援員からの助言や説明は、具体的にわかりやすく、取り入れやすいものですか。	13	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・助言に関して、すぐに取り入れてお子さんの変化は感じられます。 ・具体的な場面での助言であるため。 ・その場でフィードバックしていただけることが多かったので具体的な内容を伺うことができました。学級の実情もあり、取り上げられるものばかりではありませんでしたが、参考になりました。 ・常にごちらの保育の状況や立場を踏まえてお話ししてくださり、実践しやすいアドバイスをいただいています。 	訪問支援員の助言は概ね具体的に受け入れやすいと評価されている一方、学級の実情により活用が難しい場面もあるとの声がありました。今後は、園の状況により即した助言の選択や、活用しやすい形でのフィードバック方法をさらに工夫していきます。	
2 訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	13	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・大変、満足しています。本児への言葉かけや対応を間近で職員が学ぶことができている。 ・特に不満を感じることはございません。 ・子どもの様子を少しお伝えしただけで、成長過程を予想して下さるなど、経験豊富な方が多くいらっしゃいます。 	訪問支援員の知識・技術については、「大変満足している」「不満はない」「少しの情報から成長過程を予測してくれる」などの意見が寄せられ、専門性の高さが評価されていました。今後は、こうした強みをより多くの場面で共有できるよう、支援内容の見える化や学びの機会の拡充にも取り組んでいきます。	
3 訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	12	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の中で、本児の様子をお伝えし、丁寧にご指導頂いています。 ・たくさんではありませんでしたが、何度も質問をさせていただき、答えていただきました。 ・現場はもちろん、電話での相談にも丁寧に応じていただいています。 ・質問はしていません。 ・時間が取れないため。 	訪問支援員は、日々の保育や電話相談にも丁寧に対応し、質問には適時・適切に答えていると評価されています。一方で、時間が確保できず質問できない場合もあるため、今後は相談しやすい環境づくりや情報共有の工夫を進めて参ります。	
4 保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	11	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者へのアプローチなどで悩んでおられますと、適切な方法で助けてくださっています。ご相談する事で、たびたび問題が解決しました。 ・言葉のやりとりについて、園の関わりを施設でも同じように取り入れているという話があり、連携が本児の成長につながっていると感じました。 ・本児の課題となっている会話の部分について、あたたかく話して下さり、本児の発語が促されています。 ・支援員さんとの話す時間を十分にとれないため。 ・支援員さんを利用している児童以外にも課題のある児童がいて、課題や困りごとが解消されたかという点とどちらとも言えません。 ・上手にいくこともあれば、そうでない時ももちろんあるので、時によりけりです。 	保育所等訪問支援の利用により、保護者対応や言葉のやりとりなどの課題が改善したとの声が多く、本児の発語が促されるなど成長につながっていると評価されています。一方で、支援員と話す時間が十分に確保できない場合や、支援対象者の児童の課題まで解消しきれないなど、状況により効果に差があるとの意見もあり、今後は相談時間の確保や支援の幅を検討してまいります。	
5 事業所からの支援に満足していますか。	12	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・来てくださりありがとうございます。 ・いつもご支援いただきありがとうございます。 ・利用者個人については概ね良かったのではないかと思います。 ・繋がりを持っていただくようになってから、職員一同、安心してご相談できる場所ができて感じています。また、マイムさんを利用した子ども達は、驚くほど成長しています。今後も引き続き、お力添えをお願いしたいです。 ・特別支援学級は事業所から支援を受ける対象というよりは、実際のところ、児童理解を深めるための情報交換をしたという印象のため、「支援評価」の文言がピンとこなかったです。 ・支援員さんからお名刺はいただいています、どのような専門性をおもちか意識しないまま今年度は過ぎてしまったかもしれません。 ・以前、遊びについての助言をいただいたが、思うように関心を示さなかった。環境設定や雰囲気の違いもあるため、難しさを感じることもあるが、1つの可能性として参考になっている。 	事業所からの支援については、「安心して相談できる」「子どもが大きく成長している」など高い満足度が示されています。一方で、特別支援学級では支援というより情報交換の側面が強かったとの声や、助言が環境によって活かしにくい場合もあるとの意見があり、今後は専門性の明確化や助言内容の活用方法をより共有してまいります。	
其他のご意見				ご意見を踏まえた対応		
いつも指導ありがとうございます。全てにおいて満足しております。行事前、不安になられている保護者に寄り添って頂いたり、当該児童の成長を共に喜んで頂き、私共も励みになっております。園からマイムさんに行き、様子を見たり、その場で質問できたりして良かった。今後も、来てもらうだけでなく、行き来できる交流ができると良いと思いました。訪問日の連絡や確認など、毎回丁寧に行って下さり、クラス担任も意識して保育計画を立てることができ、助かっています。サービス提供記録につきましても、園生活（保育）と一緒に、入り込んで様子を見ての記録となっており、担任も場面共有がしやすく、困りごとへのアドバイスとして、役立たせていただいています。今後もよろしく願っています。QRコードでお答えできましたので、次回からは封筒などは送付いただくなくて大丈夫です。ありがとうございます。				訪問先施設からは、日頃の支援に対して「全てにおいて満足している」「保護者への寄り添いや行事前の不安への対応が心強い」「児童の成長を共に喜んでもらえることが励みになる」や、保育所等から当センターを訪問して様子を見たり、その場で質問できたことが有益であったとの声もありました。今後は保育所等の訪問だけでなく双方方向の交流機会をさらに充実させる必要があると受け止めています。さらに、訪問日の丁寧な連絡により保育計画が立てやすくなったことや、保育に入り込んだサービス提供記録が場面共有や助言に役立っている点も高く評価されています。これらの意見を踏まえ、今後も丁寧な連絡体制と記録の質を維持しつつ、園との往來を含む協働の機会を広げ、より実践的で活用しやすい支援体制の構築を進めていきます。また、回答方法についてはQRコードでの回答が好評であったため、封筒送付の簡素化など、訪問先施設の負担軽減にも取り組んでいきます。		

公表 保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援センターマイム(保育所等訪問支援)

公表日 令和 8 年 3 月 28 日

利用児童数 令和 8 年 3 月 28 日 回収数 11

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。	5	1	0	5		今後は、子どもの障害特性に応じた支援の質を高めるため、これまでの実践例を整理・分析し、適切なアセスメントの方法や教材・教具の選定について検討を進めていきます。
	2 プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	9	1	0	1		ニーズの高い保育所等訪問支援に対応するため、常勤職員を含めて人員配置を拡充し、安定して支援に伺える体制を整えていきます。
	3 事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	11	0	0	0		
	4 保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	11	0	0	0		
適切な支援の提供	5 こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	9	0	1	1		職種構成や人数が児童の状態に応じた支援を行う上で適切に確保されており、必要な支援が計画的に提供できる体制となっています。
	6 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	0	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11	0	0	0		
	8 保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	9	0	0	2		保育所等訪問支援計画には、訪問先施設や担任等の意向が適切に反映されており、共通理解に基づいた支援内容が整理されています。
	9 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	0	0	1		保育所等訪問支援計画には、ガイドラインで示された「提供すべき具体的内容」を踏まえ、児童の状況や訪問先施設のニーズに応じた具体的な支援内容が適切に設定されています。
	10 保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11	0	0	0		
	11 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	10	0	0	1		訪問前の情報共有や当日の調整を通じて、訪問先施設の意向や保育環境に配慮した支援が実施されており、施設との協働的な支援体制が確保されています。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11	0	0	0		
	13 「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	6	0	1	3		保護者が参加できる研修会や交流の場、オンラインを含む情報提供など、多様な形で家族支援の機会を設けていますが、今後、更に家庭のニーズに応じた支援を実施して行きます。
	15 必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	11	0	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	1	0	0		定期的に面談や子育てに関する助言等の支援を実施しており、保護者が相談しやすい環境づくりと継続的な支援体制が確保されています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	0	0	0		
18 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	0	0	1		相談・申入れへの対応体制を整備し、保護者にも周知しています。相談が寄せられた際には、職員が連携しながら迅速かつ適切に対応しています。今後、更にも保護者の皆様が安心して相談できる環境を整えて行きます。	

	19	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11	0	0	0	
	20	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	10	0	0	1	訪問先施設からの相談に丁寧に対応し、現場の状況を踏まえた助言や支援を適切に提供しています。今後も継続的な連携から訪問先施設が安心して相談できる体制を整得て参ります。
	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	11	0	0	0	
	22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	11	0	0	0	
非常時等の対応	23	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9	1	1	0	通信・ホームページ・SNS等の複数の媒体を用いて、活動概要や連絡体制、自己評価結果を定期的に発信しています。今後、保護者が必要な情報にいつでもLINE相談など、保護者がアクセスできる環境を整えて参ります。
	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11	0	0	0	
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	11	0	0	0	
満足度	26	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	0	0	2	安全計画や緊急時対応について事業所から適切に周知されており、支援の実施にあたっては計画に沿った安全管理が徹底され、安心して利用できる体制が整っています。
	27	子どもは訪問支援を嫌がっていませんか。	11	0	0	0	児童は訪問支援を受け入れており、支援員との関わりにも安心して参加しています。支援の流れにも無理なく取り組みている様子が確認されています。
	28	事業所の支援に満足していますか。	11	0	0	0	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センターマイム（保育所等訪問支援）				公表日	令和 8 年 3 月 28 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環境 制・ 整 運 備 営 ・ 体	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	5	0		今後は、子どもの障害特性に応じた支援の質を高めるため、これまでの実践例を整理・分析し、適切なアセスメントの方法や教材・教員の選定について体系的に検討していく。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2	通園支援をしている職員が行くためスケジュールが大変	ニーズの高い保育所等訪問支援に対応するため、常勤職員を含めた人員配置を見直し、支援体制を拡充していきけるよう取り組んでいく。	
業 務 改 善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1		当センターでは、年間目標の設定や日々の振り返りを通してPDCAサイクルを運用しており、職員が会議やケース検討を通じて業務改善に広く参画している。今後は、より多くの職員が継続的に参加できるよう、振り返り方法や情報共有の工夫を進めていく。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0			
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0			
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	0			
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	2		当センターでは、職員の資質向上のために外部研修の受講機会や動画研修を確保するとともに、法人内研修や内部研修を定期的実施し、学びを共有できる体制を整えている。	
適 切 な 支 援 の 提 供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	5	0			
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0			
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	5	0			
	11	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1		保育所等訪問支援計画は職員間で共有されており、会議や日々の打合せを通して共通理解を図りながら、計画に沿った支援を実施している。今後も共有方法を工夫し、より一貫した支援が行える体制づくりを進めていく。	
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	3		子どもの適応行動の状況について、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントと、日々の行動観察によるインフォーマルなアセスメントを併用し、多面的に確認している。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0			
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0			
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	5	0			
18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	5	0				
19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	3	2	質の向上を図るため、専門家からの助言を積極的に受けるとともに、職員が外部研修へ参加できる機会を確保し、専門性向上に取り組んでいる。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	3	2	自立支援協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議に積極的に参加し、関係機関と情報共有や意見交換を行いながら、地域の支援体制づくりに貢献している。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	家族の対応力向上のため、ペアレント・トレーニングや家族が参加できる研修、オンライン相談や情報提供を行い、継続的に家族支援に取り組んでいる。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	5	0	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	5	0	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	5	0	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	2	通所では父母の会や保護者会の開催を通して保護者同士の交流機会を設けている。今後、保育所等支援の保護者会も検討して、家庭全体を支える取り組みを検討する。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	5	0	
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	5	0	
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	5	0	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	5	0	

非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0		
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0		
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	1		身体拘束が必要となる場合については、組織として基準を定め、事前にこどもと保護者へ十分に説明し同意を得たうえで、児童発達支援計画に記載している。